

# Studio/Robot v21.10 インストールガイド

2022年3月

UiPath 株式会社



This presentation may include forward-looking statements. Forward looking statements include all statements that are not historical facts, and in some cases, can be identified by terms such as “anticipate,” “believe,” “estimate,” “expect,” “intend,” “may,” “might,” “plan,” “project,” “will,” “would,” “should,” “could,” “can,” “predict,” “potential,” “continue,” or the negative of these terms, and similar expressions that concern our expectations, strategy, plans or intentions. By their nature, these statements are subject to numerous risks and uncertainties, including factors beyond our control, that could cause actual results, performance or achievement to differ materially and adversely from those anticipated or implied in the statements. Although our management believes that the expectations reflected in our statements are reasonable, we cannot guarantee that the future results, levels of activity, performance or events and circumstances described in the forward-looking statements will be achieved or occur. Recipients are cautioned not to place undue reliance on these forward-looking statements, which speak only as of the date such statements are made and should not be construed as statements of fact.

This meeting is strictly confidential. By participating in this meeting, you agree to keep any information we provide confidential and not to disclose any of the information to any other parties without our prior express written permission. Neither the information contained in this presentation, nor any further information made available by us or any of our affiliates or employees, directors, representatives, officers, agents or advisers in connection with this presentation will form the basis of or be construed as a contract or any other legal obligation.

このプレゼンテーションには、将来の見通しに関する記述が含まれている場合があります。将来の見通しに関する記述は、過去又は現在の事実以外のすべての記述を含み、場合によっては、「予期する」、「考える」、「推定する」、「予測する」、「意図する」、「場合がある」、「可能性がある」、「計画する」、「企画する」、「予定である」、「方針である」、「すべきである」、「あり得る」、「なり得る」、「予見する」、「見込みがある」、「継続する」又はこれらの用語の否定表現及び当社の予測、戦略、計画又は意図に関する類似表現によって識別されることがあります。その性質上、これらの記述は、多数のリスク及び不確実性（当社が制御できない要因を含みます。）にさらされており、実際の業績、経営結果又は達成状況は、記述において予期又は暗示された内容と大きく且つ不利に異なる可能性があります。当社の経営陣は、当社の記述に反映されている予測内容は合理的であると考えておりますが、将来の見通しに関する記述に記載されている将来の業績、活動、経営結果又は出来事のレベル及び状況が達成される又は発生することを保証することはできません。かかる将来の見通しに関する記述は、当該記述が行われた日付現在のものであり、事実に関する事項と解釈されてはならず、受領者は、当該記述に過度に依存しないようご注意ください。

この会議は極秘となります。本会議に参加することにより、貴殿は、当社が提供する一切の情報の機密性を保つこと及び当社の書面による事前の明示的な許可を得ずにいかなる当該情報も他のいかなる当事者にも開示しないことに同意するものとします。このプレゼンテーションに含まれる情報又はこのプレゼンテーションに関連して当社若しくは当社の関連会社若しくは従業員、取締役、代表者、役員、代理人若しくはアドバイザーが提供するあらゆる追加情報はいずれも、契約又はその他法的義務の基礎を形成するものではなく、また、契約又はその他法的義務として解釈されるものではありません。

# 目次

- UiPath のコア製品について
- インストーラーについて
- ライセンスの種別と、Studio/Robot の構成
- Orchestratorに接続する手順
- Orchestrator 側に Studio/Robot のライセンスを割り当てる手順
- パッケージの操作
- 補足

# UiPath のコア製品について

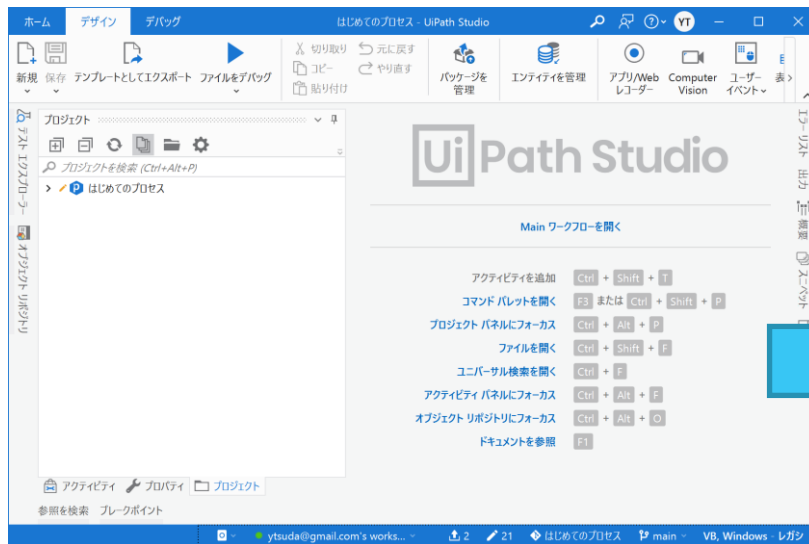
- Studio
- Robot
- Orchestrator



# UiPath Studio/Robot

UiPath の自動化は、Studio で開発し、Robot で実行します。

## UiPath Studio



開発

自動化プロセス  
パッケージ



パブリッシュ

実行

## UiPath Robot



開発を完了した自動化プロセスは、Robot で実行します。

- Studio 上でデバッグ実行するよりも、高速に実行できます。
- 作成した自動化を、誤って変更してしまうことはありません。

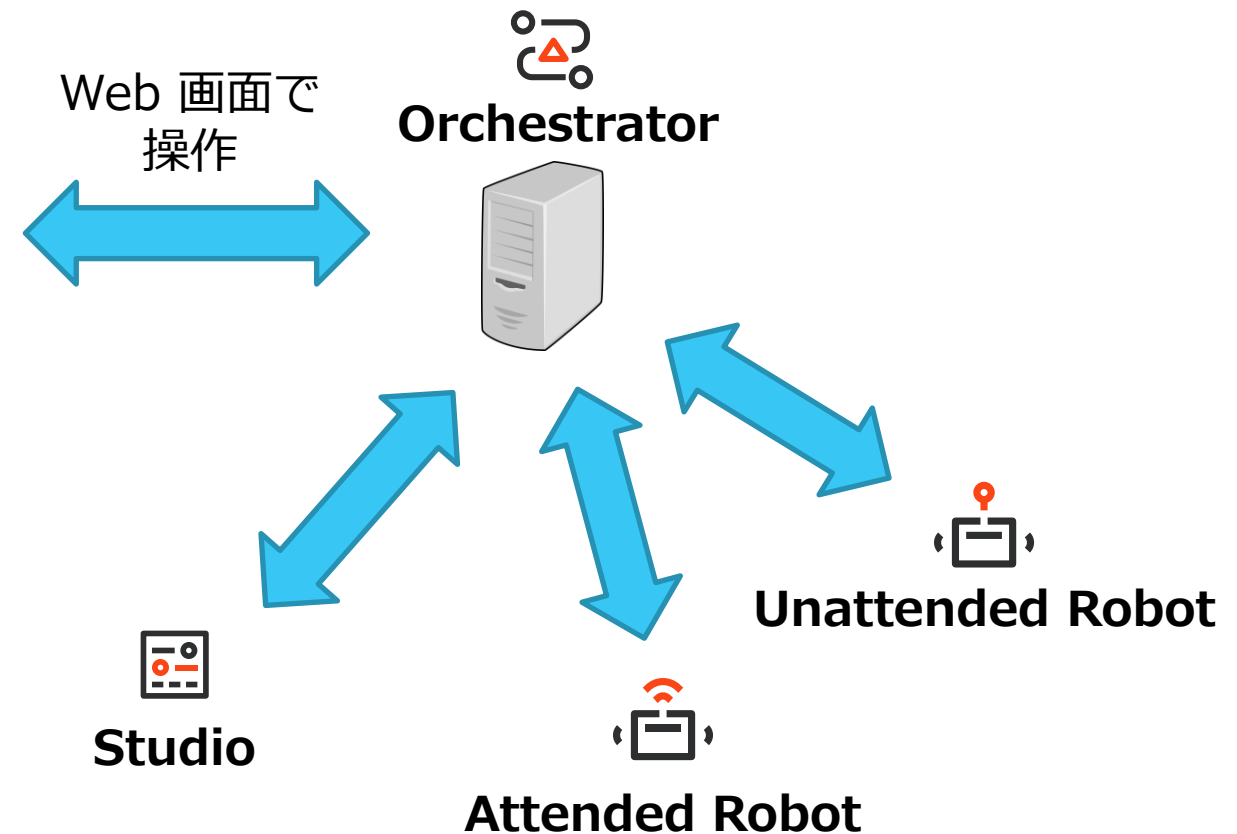
※ Robot のこの設定画面を  
Assistant といいます。

# UiPath Orchestrator

Orchestrator は、複数の Studio/Robot マシンを管理するサーバー製品です。



各 Studio/Robot にライセンスを配布したり  
ログを集中管理するなどのことが行えます。

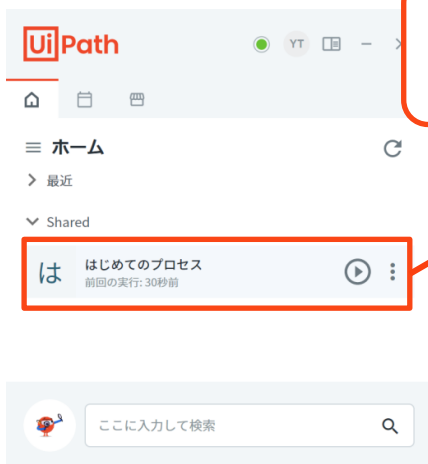


# Attended Robot と Unattended Robot

UiPath Robot は、その利用形態によって Attended もしくは Unattended に区別されます。

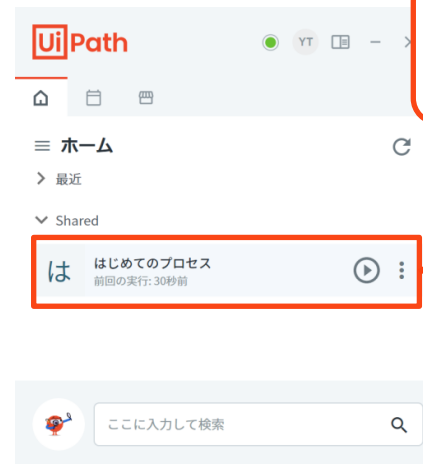
Attended と Unattended は、ソフトウェアとしては完全に同一です。  
ライセンスによって、利用方法が制限されることにご注意下さい。

## Attended Robot



Assistant ウィンドウから  
手動で実行開始を指示

## Unattended Robot

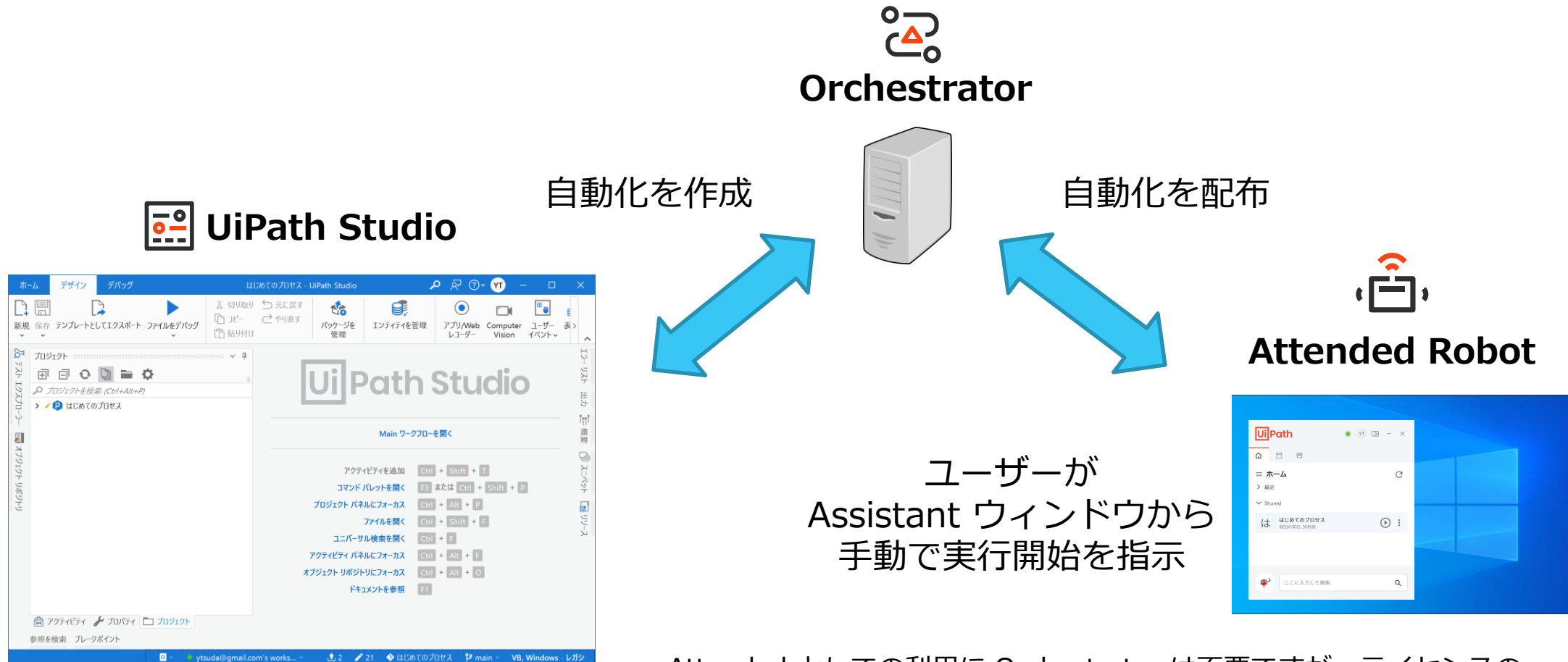


Orchestrator が  
自動で実行開始を指示

Attended としての利用に Orchestrator は不要ですが、後で Orchestrator を導入することも容易です。

# Attended Robot

Studio で開発した自動化は、Orchestrator を介して別の（複数台の）マシンの Robot に簡単に配布できます。



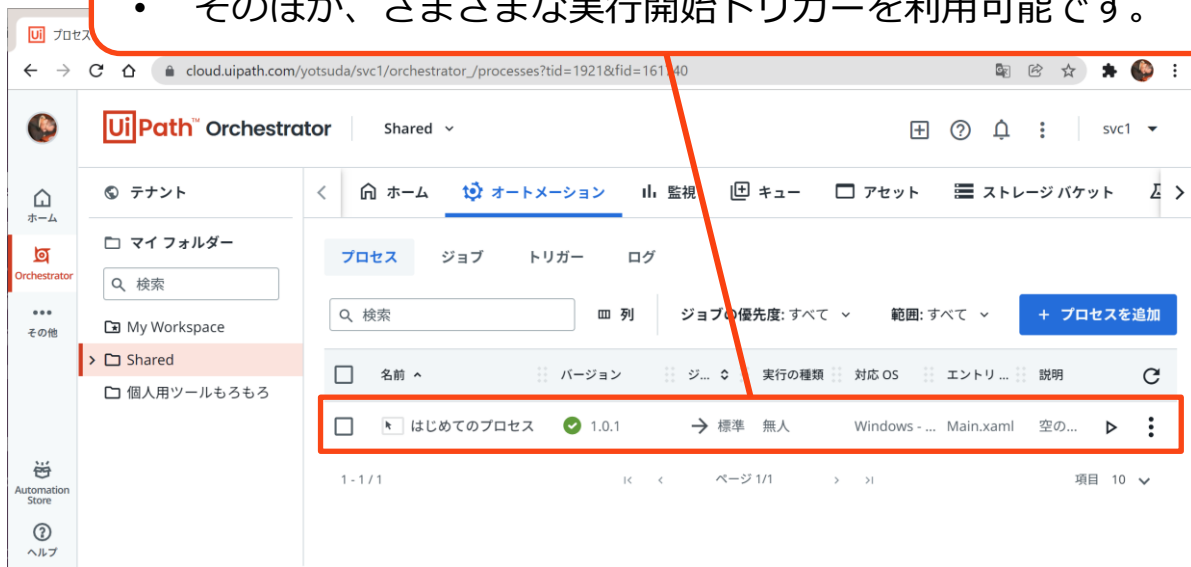
Attended としての利用に Orchestrator は不要ですが、ライセンスのアクティベーションや、作成した自動化の配布には Orchestrator が便利です。



# Unattended Robot

Unattended Robot は、Orchestrator からの指示に従い、無人の PC に自動でログインして自動化を実行します。

- ユーザーが、実行開始を Web 画面から手動で指示できます。
- スケジュールを構成しておき、自動で実行開始もできます。
- そのほか、さまざまな実行開始トリガーを利用可能です。



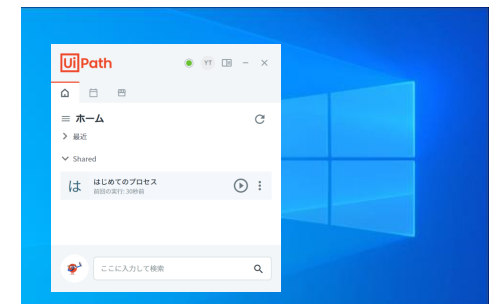
Unattended の利用には、Orchestrator との接続が必須です。

Orchestrator

自動化の  
実行開始を指示

Unattended Robot

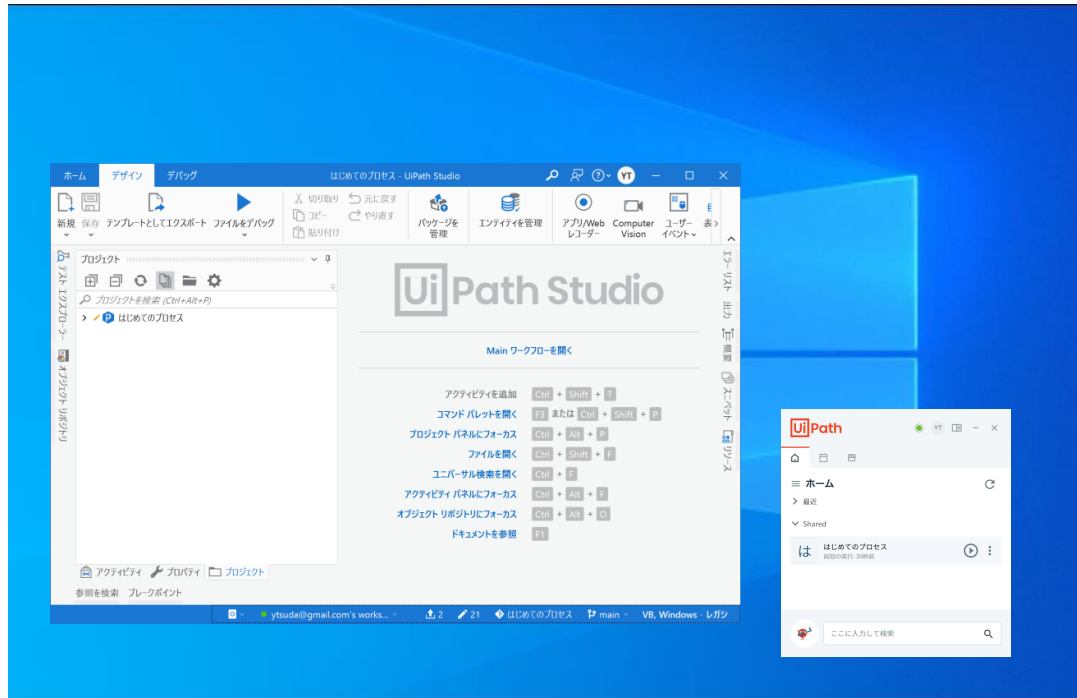
無人の PC にログインして  
自動化を実行し、ログオフ



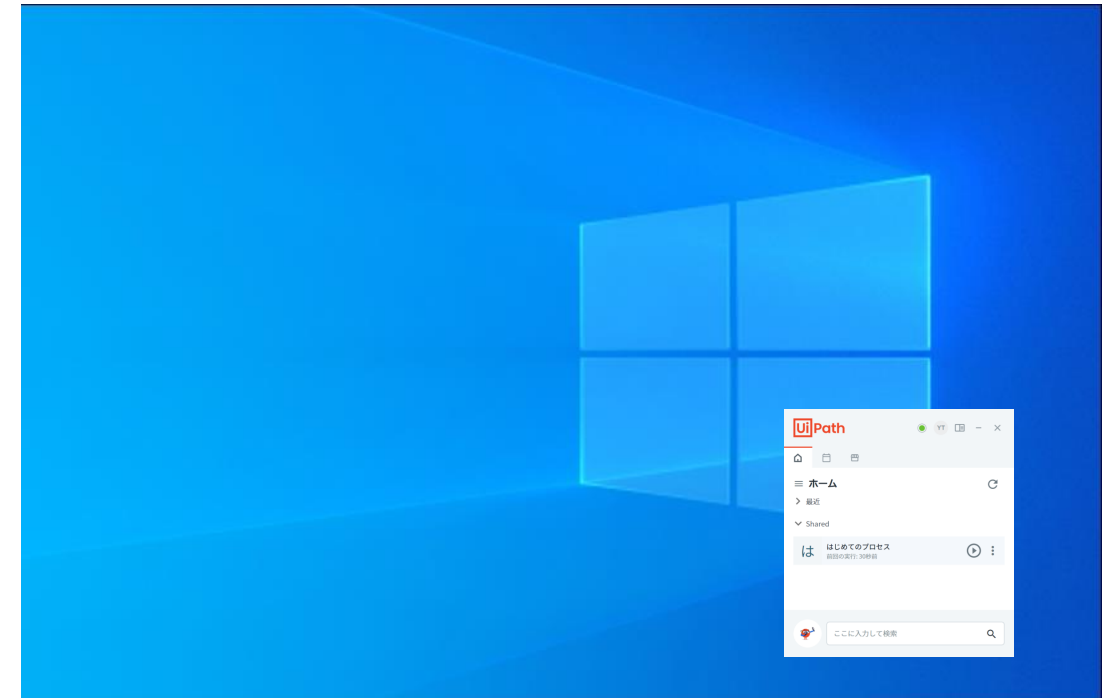
# Studio と Robot の構成

Studio と Robot は、次のいずれかの構成でインストールできます。

## A) Studio と Robot の両方をインストール



## B) Robot のみをインストール



# インストーラーについて

- ・ インストーラーの入手
- ・ インストーラーの種別
- ・ システム要件の確認



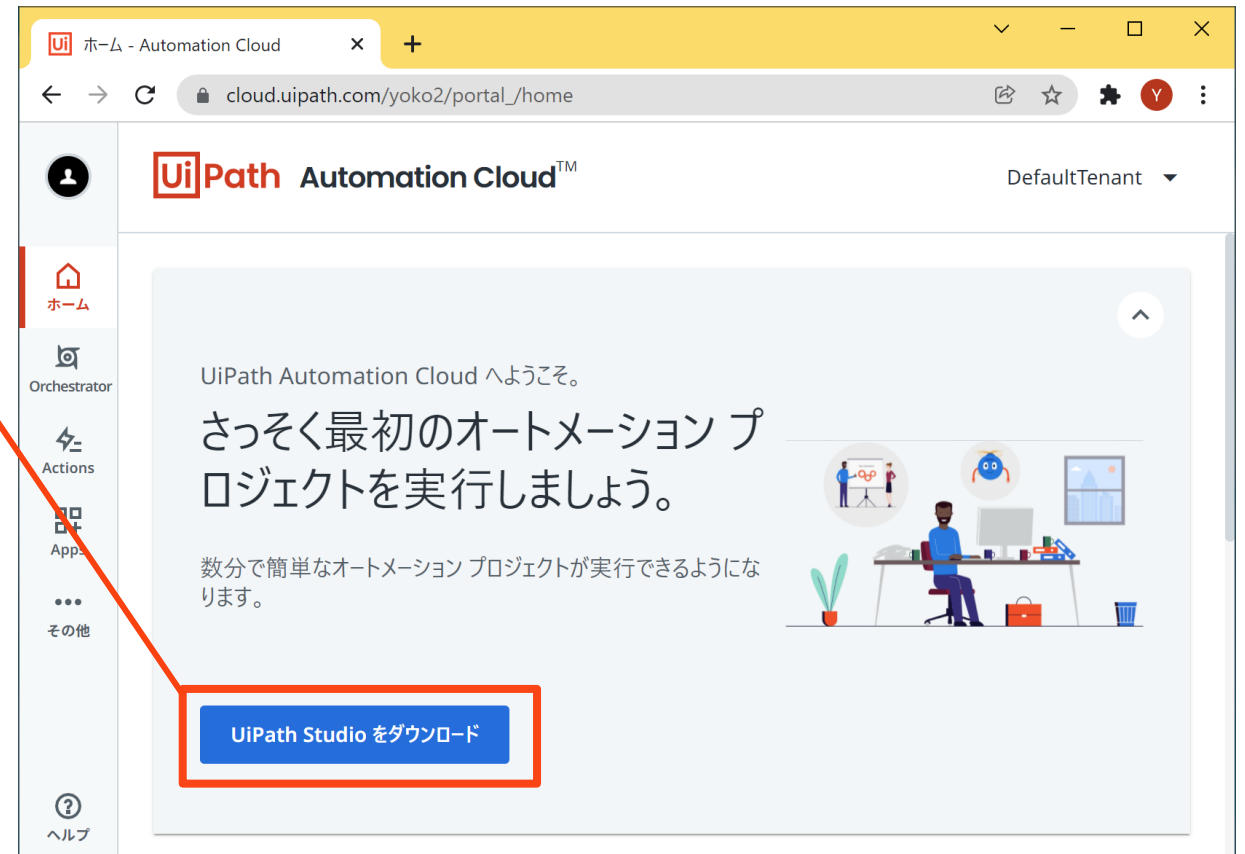
# インストーラーの入手

UiPath Automation Cloudにアカウントを作成し、ログインして下さい。

## UiPath Automation Cloud

<https://cloud.uipath.com/>

- ここから Windows 版のインストーラーをダウンロードできます。
- Mac 版などのほかのインストーラーは Automation Cloud の「リソースセンター」にあります。
- 「リソースセンター」を有効にするには、Automation Cloudの「管理」->「ライセンス」ページから、Enterprise 無料評価版をリクエストします。



# インストーラーの種別

インストール先の OS に適切なインストーラーを入手して下さい。

製品	インストーラー	インストール可能な環境
Windows Studio/Robot 32-bit	<ul style="list-style-type: none"><li>UiPathStudio-x86.msi</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Windows 32-bit</li><li>Windows 64-bit</li></ul>
Windows Studio/Robot 64-bit	<ul style="list-style-type: none"><li>UiPathStudio.msi ※</li><li>UiPathStudioCloud.msi</li><li>UiPathStudioCommunity.msi</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>Windows 64-bit</li></ul>

※ 複数のインストーラーが利用可能ですが、どれを使っても同じ結果が得られます。  
(良いユーザーエクスペリエンスを提供するため、既定のアクティベーション方法のみ異なります)

※ Studio/Robot 32-bit 版がインストール済みの場合も、64-bit 版のインストーラーでバージョンアップできます。

※ v2020.10 までは 32-bit 版のインストーラーのみ利用可能です。

# システム要件の確認

要件を満たさないマシンにインストールした場合、動作は保証できません。

- UiPath 製品のバージョンにより、製品の要件が異なる場合があります。
- バージョン選定時には、既存マシンのスペックも考慮して下さい。

ハードウェア要件	ソフトウェア要件
<ul style="list-style-type: none"><li>• CPU のコア数とビットネス</li><li>• RAM</li><li>• ディスク領域</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• OS のバージョンとビットネス</li><li>• .NET Framework のバージョン</li><li>• その他、自動化可能なブラウザーや Citrix 環境などについて</li></ul>

詳細は下記をご参照下さい。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件 (Studio)

<https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/studio-hardware-and-software-requirements>

# ライセンスの種別と Studio/Robot の構成

- ライセンスのアクティベーション方法
- Studio/Robot を Orchestrator に接続する方法
- ユーザーモードとサービスモード
- クイックインストールとカスタムインストール
- インストーラーの使用手順

# ライセンスのアクティベーション方法

Orchestrator への接続の有無により、アクティベーション方法が異なります。

ライセンスの種別	Orchestrator への接続	
	接続なし	接続あり
Community ライセンス	Studio をクイックインストールした場合のみサポートされます。	Orchestrator に接続するだけで、ライセンスがアクティベーションされます。 （Orchestrator 側にライセンスを導入しておく必要があります）
Enterprise ライセンス	弊社サポートより、アクティベーションキーを入手して下さい。	
Enterprise トライアルライセンス		

※ ライセンスについては、下記をご参照下さい。

<https://www.uipath.com/ja/resources/knowledge-base/license-update>

以降の説明は、Orchestrator へ接続して Studio/Robot を利用する前提で記載します。



# Studio/Robot を Orchestrator に接続する方法

マシンごとに、対話型サインイン認証か、マシンキー認証のいずれかで接続して下さい。

接続の用途と手順	対話型サインイン認証	マシンキー認証
Studio/Attended Robot の接続に	◎ 推奨	○ 利用可能
Unattended Robot の接続に	× 利用不可	◎ 必須
設定手順	<ul style="list-style-type: none"><li>ユーザー情報の登録のみ</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ユーザー情報の登録</li><li>Orchestrator に追加したマシンテンプレートから払い出したマシンキーを Assistant に設定</li></ul>
接続手順	手動 (ユーザーがブラウザーで Orchestrator にサインイン)	自動

# ユーザーモードとサービスモード

インストール時に選択が必要となる、重要なオプションです。

Unattended として利用する Robot は、サービスモードでインストールしてマシンキー認証を構成する必要があります。

		インストール時のオプション	
		ユーザーモード	サービスモード
利用できる認証方法	対話型サインイン※1	○ 利用可能	△ マシンキーを構成後に利用可能
	マシンキー※2	○ 利用可能	◎ 必須
Assistant の設定変更に マシンの管理者権限が必要か ※3		不要	必要
Unattended としての利用 (Robot サービスが Windows にログイン)		× 利用不可	○ 利用可能

※1 Orchestrator のテナント設定で、対話型サインインを有効にする必要があります。

※2 Orchestrator でマシンテンプレートを作成し、マシンキーを払い出して下さい。

※3 Orchestrator 接続設定や、マシンキー、ログレベルの設定などについてです。

# クイックインストールとカスタムインストール

企業（Enterprise）で使用される場合は、カスタムインストールをお勧めします。

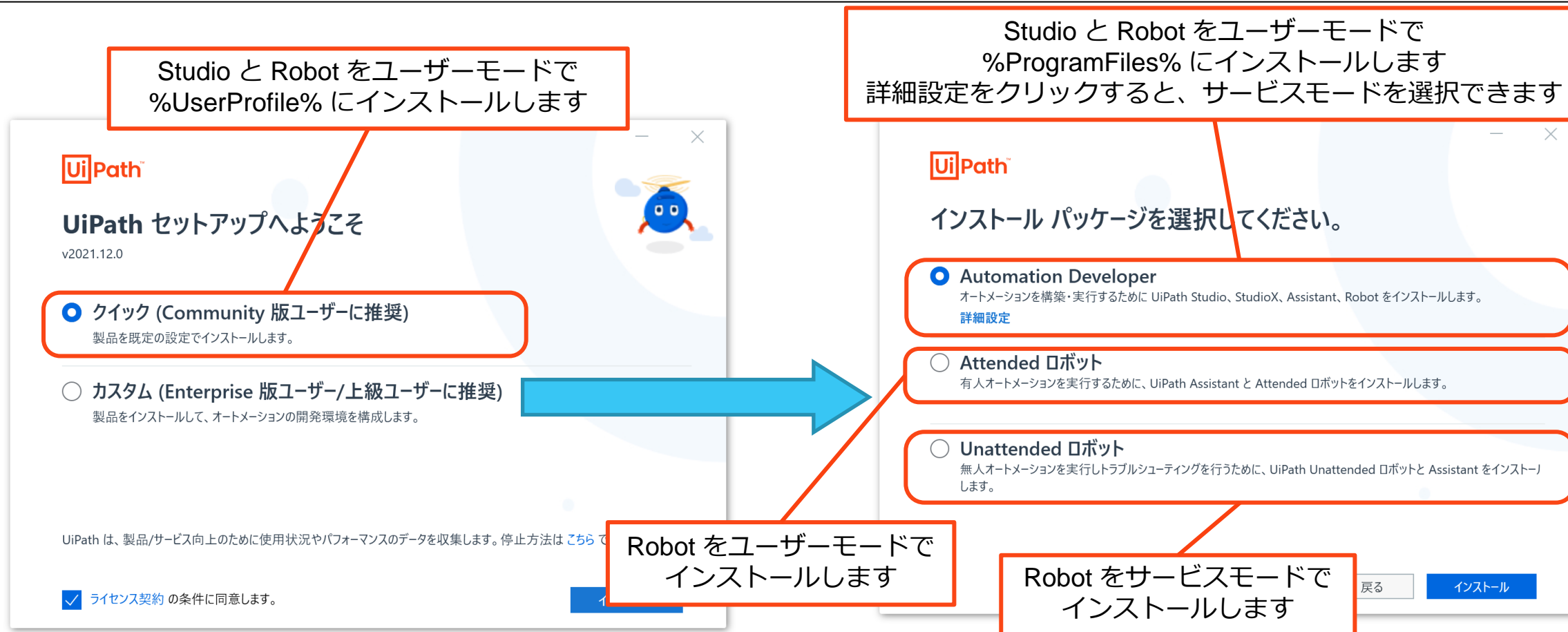
	クイック	カスタム
インストールできるモード	ユーザーモードのみ	ユーザーモードと サービスモード
インストールディレクトリ	%LocalAppData%\¥Programs 配下	%ProgramFiles% 配下 (変更可能)
Studio/Robot を 利用できるユーザー	インストールした人のみ	このマシンの すべてのユーザー
インストール時の ローカル管理者権限	不要	必要

ユーザーモードとサービスモードの詳細は、下記を参照して下さい。

<https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/studio-install-studio>

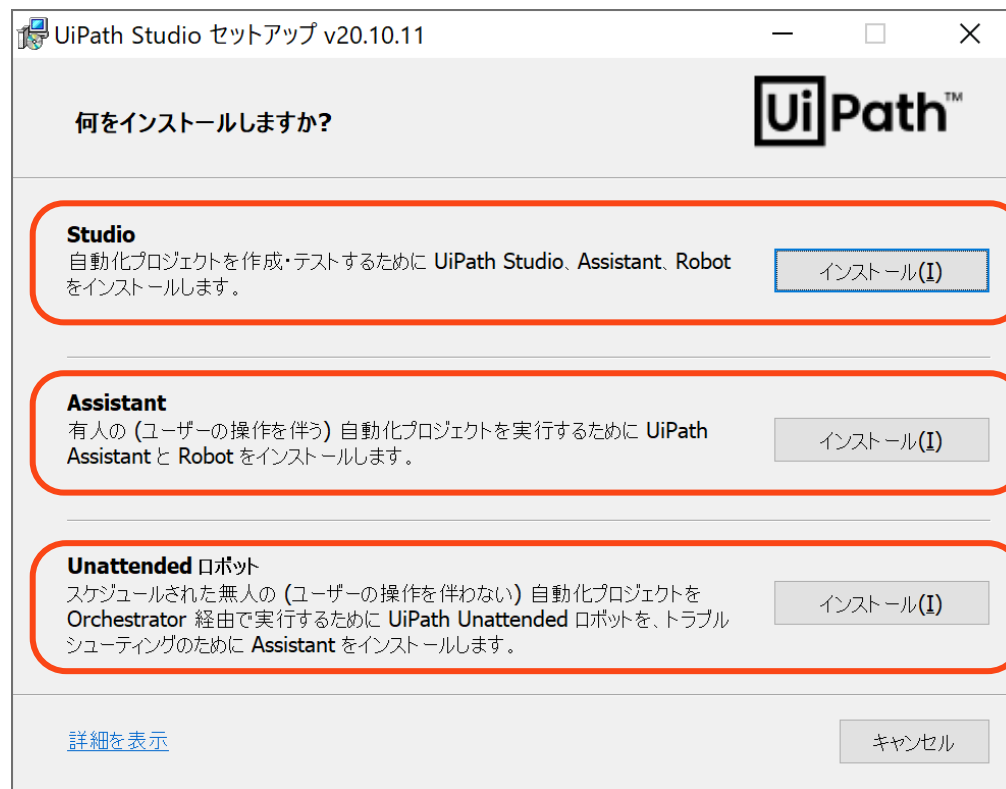
# インストーラーの使用手順

インストーラーでは、クイックとカスタムを選択できます。カスタムでは、インストールパッケージを選択できます。



# インストーラーの使用手順 (v20.10)

v20.10 でクイックインストールは、UiPathStudioSetup.exe を使います。  
カスタムインストールは、UiPathStudio.msi を使います。



Studio と Robot をユーザーモードで  
%ProgramFiles% にインストールします  
詳細設定をクリックすると、サービスモードを選択できます

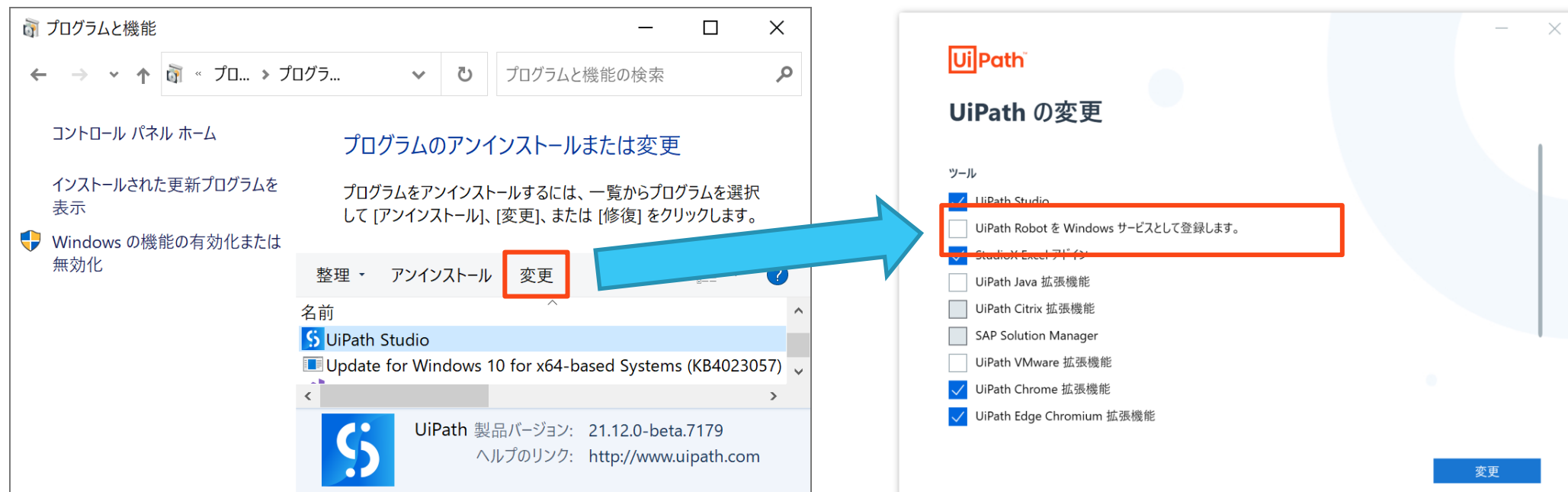
Robot をユーザーモードで  
インストールします

Robot をサービスモードで  
インストールします

ここでは、UiPathStudio.msi v20.10 の使い方を示しました。  
なお v21.10 では、UiPathStudioSetup.exe は UiPathStudio.msi に統合されました。

# ユーザーモードとサービスモードの切り替え

カスタムでインストールした Studio/Robot であれば、インストール後にコントロールパネルから切り替えできます。



※ クイックインストールした Studio/Robot のモードを切り替えるには、いちどアンインストールしてからカスタムで再インストールして下さい。

<https://docs.uipath.com/robot/lang-ja/docs/nuget-packages-not-accessible-after-migration>

# トラブルシューティング

下記WEBガイドをご参照下さい。このページの内容はWEBガイドからの抜粋です。  
<https://docs.uipath.com/robot/lang-ja/docs/about-troubleshooting>

よくある問題	原因	対処方法
Studio のステータスバーに「Robot のエラー」と表示される。Assistant にプロセスリストが表示されない	v2020.04 より、Studio/Assistant を管理者権限で実行した場合には Robot サービスと通信できません。	Studio/Robot を、Robot サービスと同じ特権レベルで実行します。
自動化プロセスの実行が遅い？	クイックインストールした場合のインストール先 %LocalAppData%\UiPath が信頼されない場所であるため、ログ出力のたびに Windows Defender がログファイルをスキャンします。	Windows の[ウイルスと脅威の防止] 設定で、%LocalAppData%\UiPath を除外します。
ユーザーモードからサービスモードに切り替えた後、自動化プロセスを実行できなくなった	.nuget キャッシュフォルダ内に展開されたファイルの所有権が、サービスアカウントになっているため読み込むことができません。	.nuget キャッシュフォルダーを削除します。 <a href="https://docs.uipath.com/robot/lang-ja/docs/nuget-packages-not-accessible-after-migration">https://docs.uipath.com/robot/lang-ja/docs/nuget-packages-not-accessible-after-migration</a>

# Orchestrator に接続する手順

- 対話型サインイン認証
- マシンキー認証

※ Automation Cloud に接続し、モダンフォルダーを使って構成する手順を説明します。  
オンプレ版の Orchestrator に接続する手順については、ユーザーガイドをご参照下さい。





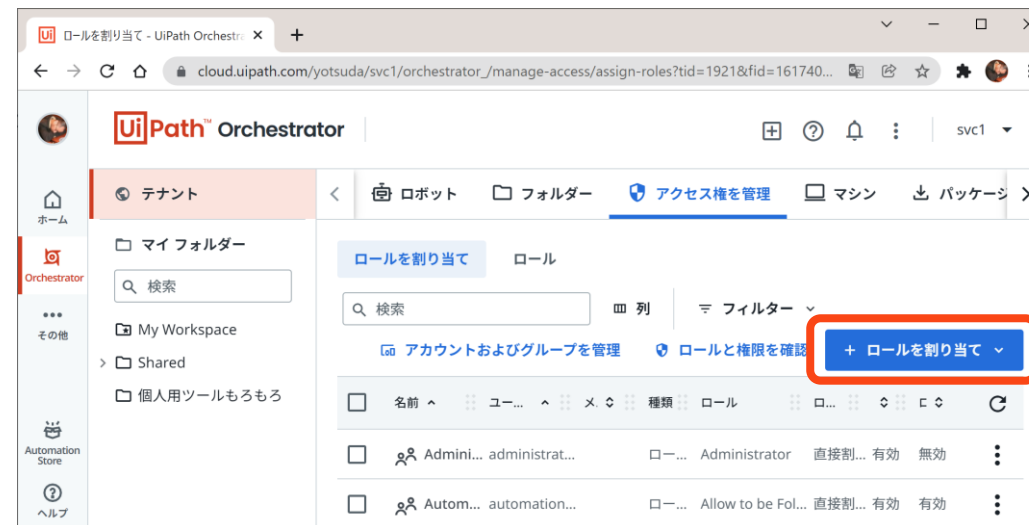
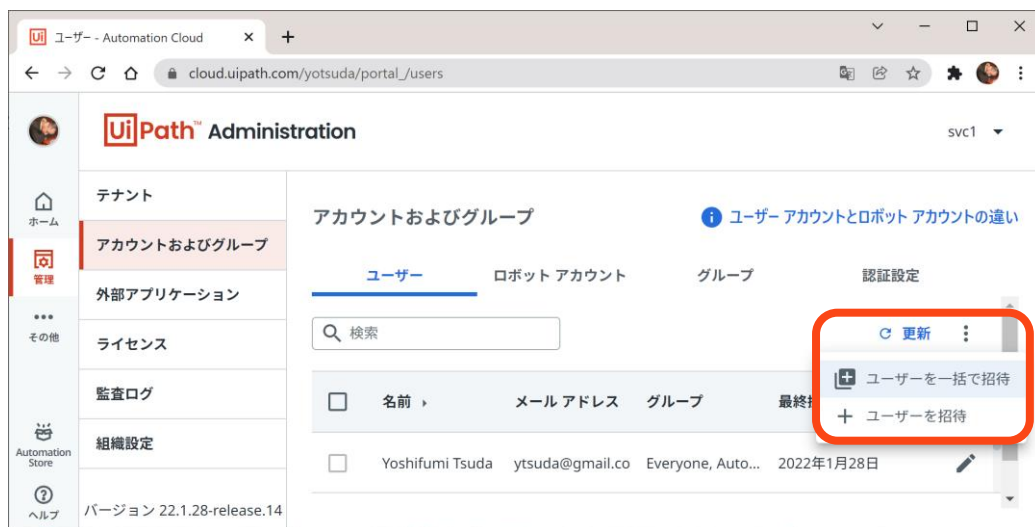
# 対話型サインイン認証を構成する

当該のユーザーをOrchestrator に登録するだけで構成が完了します。  
その後必要に応じ、ユーザへのアクセス権限付与や、Attendedの有効化をします

① [管理] → [アカウントおよびグループ] で  
ユーザーを招待

② Orchestrator の [アクセス権を管理] で  
当該のユーザーに適切なロールを付与

③ このユーザーを編集し、Attended を有効化



※ テナントの設定で、対話型サインインを有効にしてください。

※ ロボットアカウントとは、ユーザーを招待することなく作成できるUnattended 専用のアカウントです。

※ 対話型サインイン認証では、Attended のドメイン¥ユーザー名は使用しません。（無視されます）

# 対話型サインイン認証で接続する

Orchestrator に接続することにより、ライセンスをアクティベーションできます。

## Studio から接続する場合

The screenshot shows the '利用を開始する' (Get Started) dialog in UiPath Studio. It has three main options: 'サインイン' (Sign In), 'Orchestrator に接続' (Connect to Orchestrator), and 'スタンドアロン オプション' (Standalone Option). Red callout boxes provide additional details:

- 対話型サインインで接続 (サービスモードでは無効)**: Points to the 'サインイン' button.
- マシンキーで接続**: Points to the 'サインイン' button.
- Orchestrator に接続せず ライセンスキーでアクティベーション**: Points to the 'Orchestrator に接続' option.

**サインイン**  
管理者により [サインイン] オプションが有効化されている場合は、このオプションを使用してライセンスを取得します。サインインすると、Orchestrator を含むすべてのサービスに自動的に接続されます。

**Orchestrator に接続**  
管理者から Orchestrator URL とマシン キーを提供された場合は、このオプションを選択して Studio のライセンスを取得し、利用を開始します。

**スタンドアロン オプション**  
スタンドアロンの Enterprise または無料評価版ライセンス キーを受け取った場合や、Cloud アカウントを持たない Community Edition ユーザーは、このオプションを使用してライセンスを取得し、利用を開始します。

## Assistant から接続する場合

The screenshot shows the UiPath Assistant login interface. It features the UiPath logo at the top, a user icon, and the text 'アカウントにサインインしてください。' (Sign in to your account). A blue 'サインイン' (Sign In) button is highlighted with a red box. Below it is a link for 'オフラインを継続' (Continue offline). At the bottom, there is a search bar with the placeholder text 'ここに入力して検索' (Enter text here to search).

同じマシンの Studio と Robot は、Orchestrator との接続状態を共有します。

# マシンキー認証を構成する

マシンキー認証で Studio/Robot を Orchestrator に接続する手順です。

- ① ユーザーの設定で、Robot を有効化
- ② マシンテンプレートを追加
- ③ 払い出したマシンキーを、Assistant に設定
- ④ ユーザーを、フォルダーに割り当て
- ⑤ （Unattended の場合）マシンテンプレートを、フォルダーに割り当て

# ① ユーザーの設定で、Robot を有効化

対話型サインイン認証と同じ手順でユーザーを招待してロールを割り当てたら、このユーザーを編集して Attended もしくは Unattended を有効にしてください。

このユーザーで Studio/Attended として利用するには、ここを有効にして、ドメイン¥ユーザー名を設定して下さい

このユーザーで Unattended として利用するには、ここを有効にして、ドメイン¥ユーザー名とパスワードを設定して下さい。Robot は、この資格情報を使って Windows にログインします

※ 当該のユーザーのドメイン名を確認するには、このユーザーで Windows にログインし、コマンドプロンプトで whoami コマンドを実行します。

## ② マシンテンプレートを追加

ひとつのマシンテンプレートで、複数の Studio/Robot マシンを構成できます。



1. 適当な名前をつけて、マシンテンプレートをプロビジョニングします

※ 個人用ワークスペースが有効化されていれば、既定で<お名前>'s workspace という名前のマシンテンプレートが作成されます。Studio/Attended 向けには、これをそのまま使用して下さい。  
(この場合、マシンテンプレートの追加は不要です)

2. ここをクリックして、追加したマシンテンプレートのマシンキーをクリップボードにコピーします

### ③ 払い出したマシンキーを、Assistant に設定

払い出されたマシンキーを、Assistant に設定して下さい。

UiPath 設定

全般  
キーボードショートカット  
Orchestrator の設定  
スタートパッド

フィードバック  
ヘルプ

UiPath

Orchestrator の設定

接続の種類  
マシンキー

マシン名  
YT-DELL

Orchestrator URL  
https://cloud.uipath.com/yotsuda/svc1

マシンキー  
13981086-A6BD-4C17-B85A-3206A732DC49

接続

ステータス: ● 接続が切断されました

ログ  
ログレベル  
Information

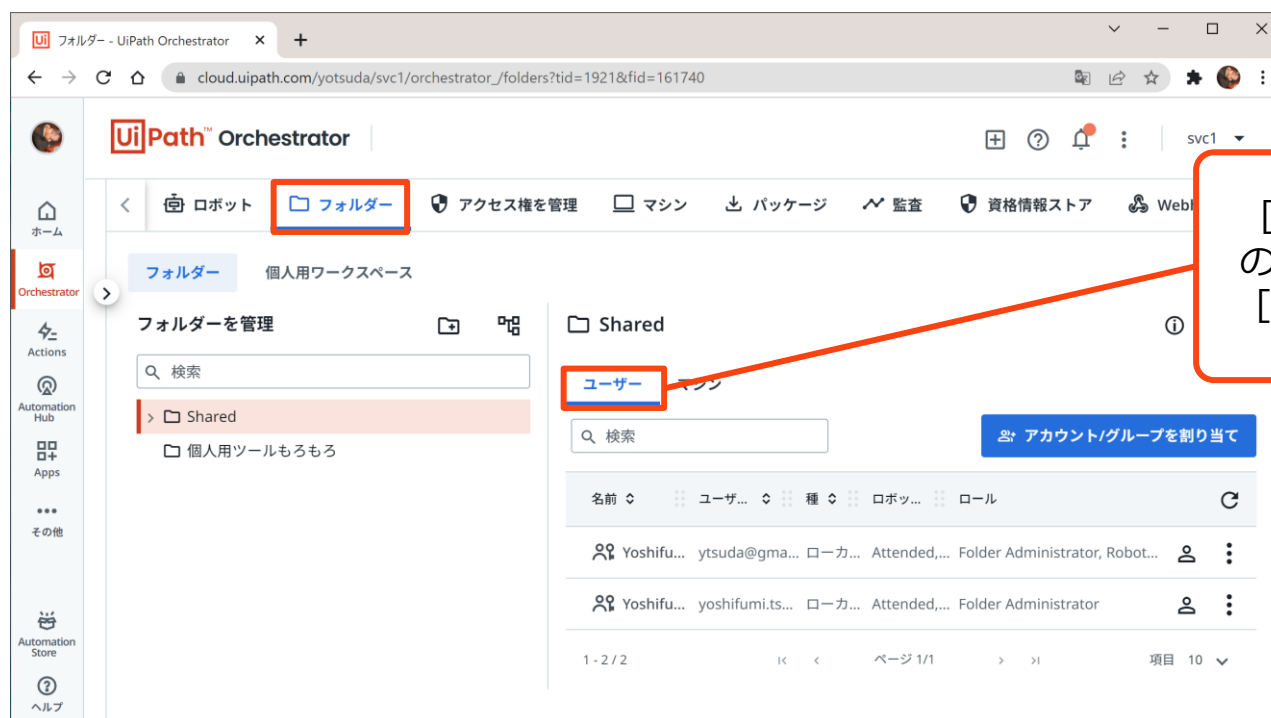
オートメーションの実行中に出力される情報ログには、機密データが含まれている可能性があります。詳しくは、[Assistant のドキュメント](#)をご覧ください。

接続の種類を「マシンキー」として  
URL とマシンキーを入力し、  
「接続」をクリックします

ひとつのマシンテンプレートから払い出された  
マシンキーは、複数の Assistant で共有できます。

## ④ ユーザーを、フォルダーに割り当て

これにより、このフォルダーにあるプロセスが Assistant で利用可能になります。  
また、アセットやキューが Studio で利用可能になります。

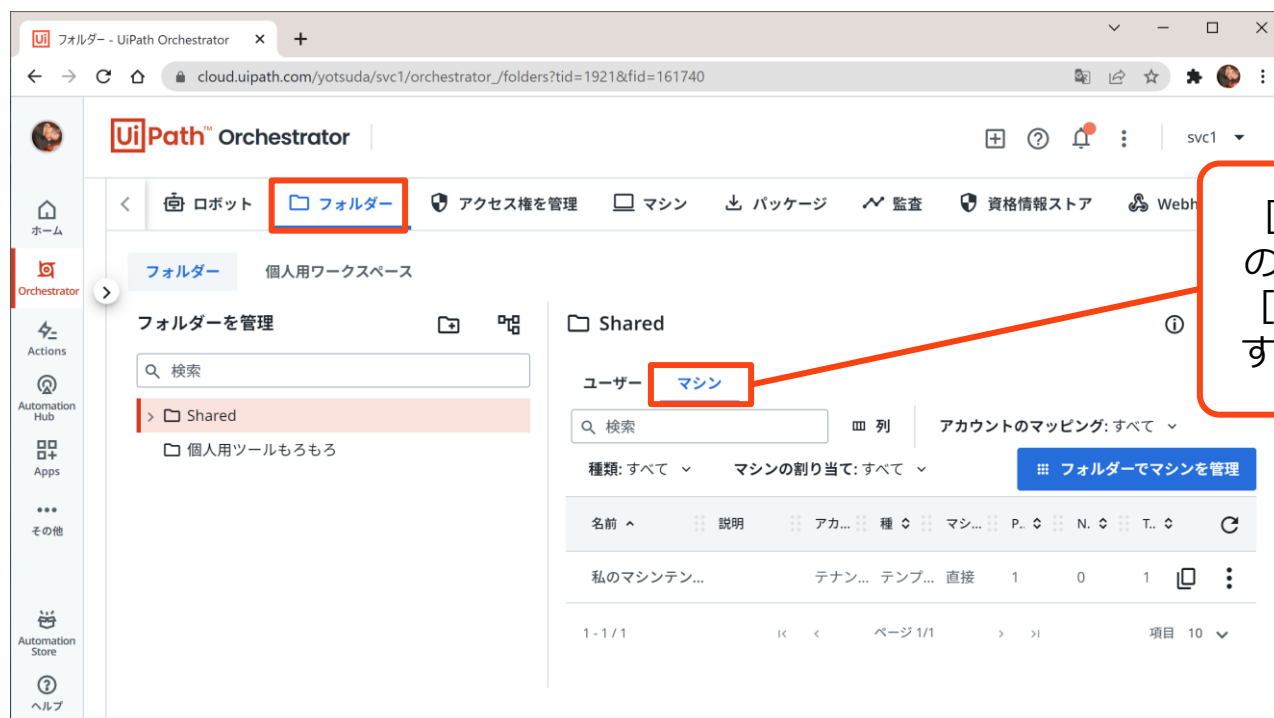


[🌐 テナント] の [📁 フォルダー] 画面で当該のフォルダーを選択して下さい。  
[ユーザー] タブでユーザーを割り当てます。

「<お名前>'s workspace machine」のマシンテンプレートは、既定で個人用ワークスペースフォルダーに割り当てられています。

## ⑤ マシンテンプレートを、フォルダーに割り当て

Unattended として利用する場合には、当該のマシンテンプレートもフォルダーに割り当てて下さい。このマシンで、プロセスをスケジュール実行できます。



【🌐 テナント】の【📁 フォルダー】画面で当該のフォルダーを選択して下さい。  
【マシン】タブでマシンテンプレートを割り当てます。

「<お名前>'s workspace machine」のマシンテンプレートは、既定で個人用ワークスペースフォルダーに割り当てられています。



# Orchestrator 側に Studio/Robot の ライセンスを割り当てる手順

- 利用できるライセンスの総数を確認
- Studio/Attended に割り当て
- Unattended に割り当て

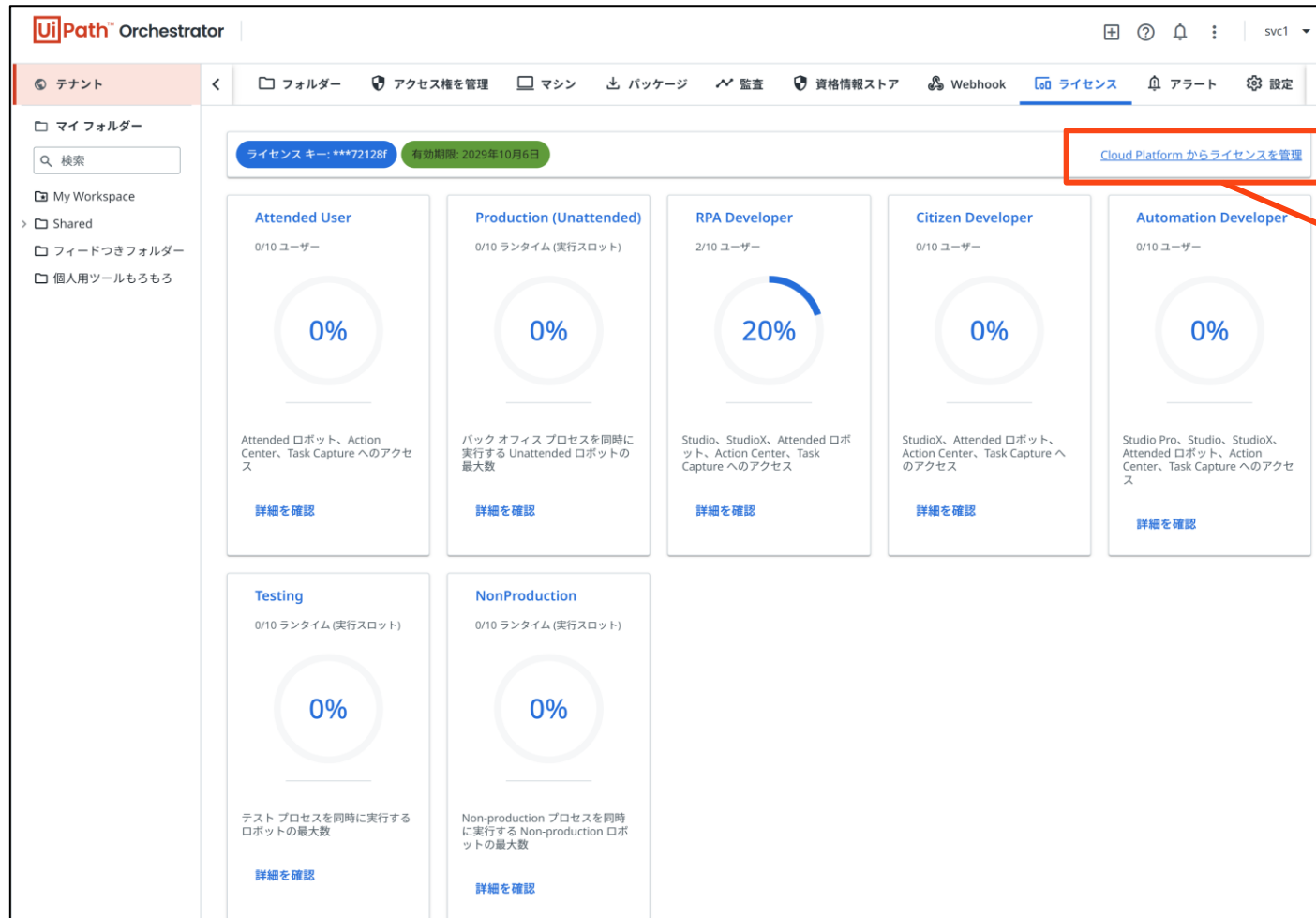
# ライセンスの割り当て

オンラインアクティベーションを使う場合は、Orchestrator 側でライセンスを割り当てておく必要があります。

1. 利用できるライセンスの総数を確認
2. ライセンスを Studio/Attended ユーザーに割り当て
3. ライセンスを Unattended マシンに割り当て

# 1. 利用できるライセンスの総数を確認

[テナント] → [ライセンス] で確認できます。



ライセンスが不足する場合は、  
ここから追加できます

## 2. ライセンスを Studio/Attended ユーザーに割り当て

当該のユーザーの Attended の設定に、ライセンスを割り当てます。

編集 - UiPath Orchestrator

cloud.uipath.com/yotsuda/svc1/orchestrator/\_manage-access/assign-roles/18697/edit?tid=1921&fid=161740

UiPath™ Orchestrator

アクセス権を管理 / ロールを割り当て / 編集: Yoshifumi Tsuda

1 全般の詳細 2 ロボットの設定 任意 3 ロボットの設定 任意

Attended ロボット

☒ 有効

設定

☒ このユーザーの個人用ワークスペースを有効化

ドメインユーザー名

autogen\yoshifumi.tsuda@uipath.com\_local

Unattended ロボット

☒ 有効 ⓘ

設定

☒ マシンのログイン資格情報 ⓘ

ドメインユーザー名 \*

uipath\yoshifumi.tsuda

ライセンスの種類

☐ ユーザーグループからの継承ライセンス

☐ Attended User

☐ Citizen Developer

☒ RPA Developer

☐ Automation Developer

キャンセル 戻る 次へ 更新

アクセス権を管理画面から、当該のユーザーを編集し  
ライセンスの種類を選択して下さい。

# 3. ライセンスを Unattended マシンに割り当て

当該のマシンキーにライセンスを割り当てます。

マシンを編集 - UiPath Orchestrator

cloud.uipath.com/yotsuda/svc1/orchestrator/\_machines/92868/edit?tid=1921&fid=161740

マシン / マシンを編集: yoshifumi.tsuda@uipath.com's wor...

1 マシン 2 アカウントとマシンのマッピング (すべて)

Machine details ⓘ

テンプレート名 \*

yoshifumi.tsuda@uipath.com's workspace machine

説明

クライアント バイナリの自動更新ポリシー \*

なし

自動更新ポリシーは、クライアント バイナリ (Robot、Assistant、Studio など) のバージョンに適用されます。バージョンのダウングレードはサポートされていません。更新プロセスについて詳しくは [こちら](#)、または [リリースノート](#) をご覧ください。

マシン キー

F77F337F-6678-4647-A926-CFCAC4A26A22

ランタイム ライセンス (実行スロット) ⓘ

Production (Unattended) \*

1

NonProduction \*

0

Testing \*

0

ランタイム ライセンスは、現在のマシン テンプレートに関連付けられた各ホスト マシンに適用されます。

サポートする使用方法

プロセスの種類 \*

すべて

プロセスの対応 OS \*

すべて

キャンセル 更新

ひとつのマシンテンプレートで複数の Robot マシンを接続できますが、その場合でもここにはライセンスを1つだけ割り当てて下さい。これにより、各マシンに1つずつのライセンスが割り当てられます。

(高密度ロボット※を構成する場合に、2以上を割り当てます)

※ 高密度ロボットとは、1台のサーバーOS上で複数のロボットを同時に動作させる構成です

# パッケージの操作

- パッケージファイルとは
- パッケージファイルの種別・管理
- フィードの構成

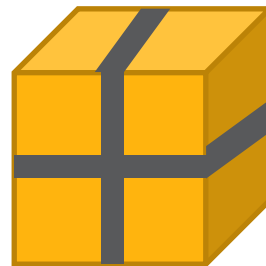


# パッケージファイルとは

UiPath の自動化は、パッケージファイルの形式で Robot マシンに配布されます。

## パッケージファイル

- 拡張子が .nupkg のファイル（実は zip 形式で圧縮されたファイル）
- Robot で実行可能
- ファイル名にバージョン番号が付与され、バージョン管理される
- 実行前に unzip され、Robot マシンの  
%UserProfile%\%.nuget\¥Packages フォルダに展開される



# パッケージファイルの種別

プロセスとライブラリ（アクティビティ）の2種類があります。

## プロセスパッケージ



- Robot で実行可能な自動化の単位
- この実行には、複数のライブラリが必要
- 必要なライブラリは、プロセスごとに異なる
- 例: 経費精算.1.0.5.nupkg  
(↑この名前「経費精算」が、そのまま Assistant に表示されます)

## ライブラリパッケージ (アクティビティパッケージ)

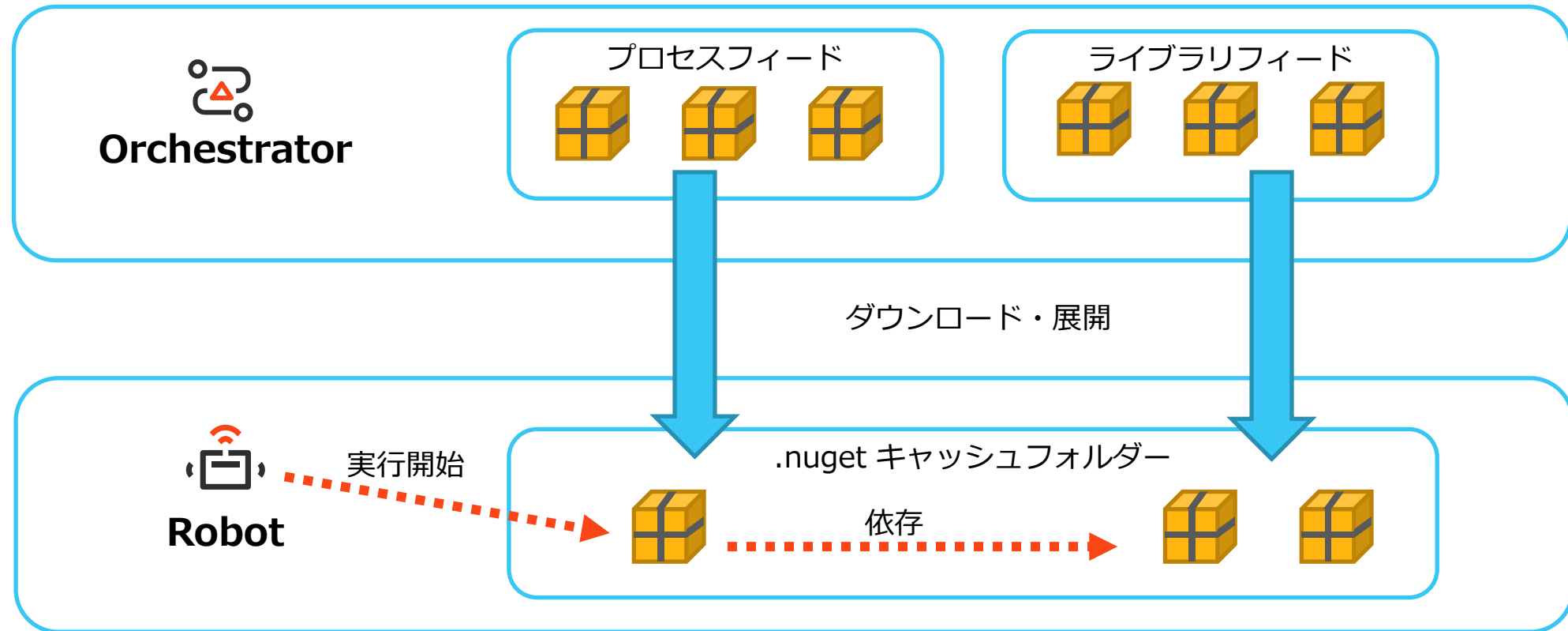


- 単体では実行できない
- Studio/Robot に既定で同梱されているほか、多くのライブラリがネットから取得可能
- ユーザーも、Studio で簡単に作成できる
- 例: UiPath.Excel.Activities.2.11.4.nupkg  
UiPath.PDF.Activities.3.4.1.nupkg  
共通部品.2.0.1.nupkg



# パッケージファイルの管理

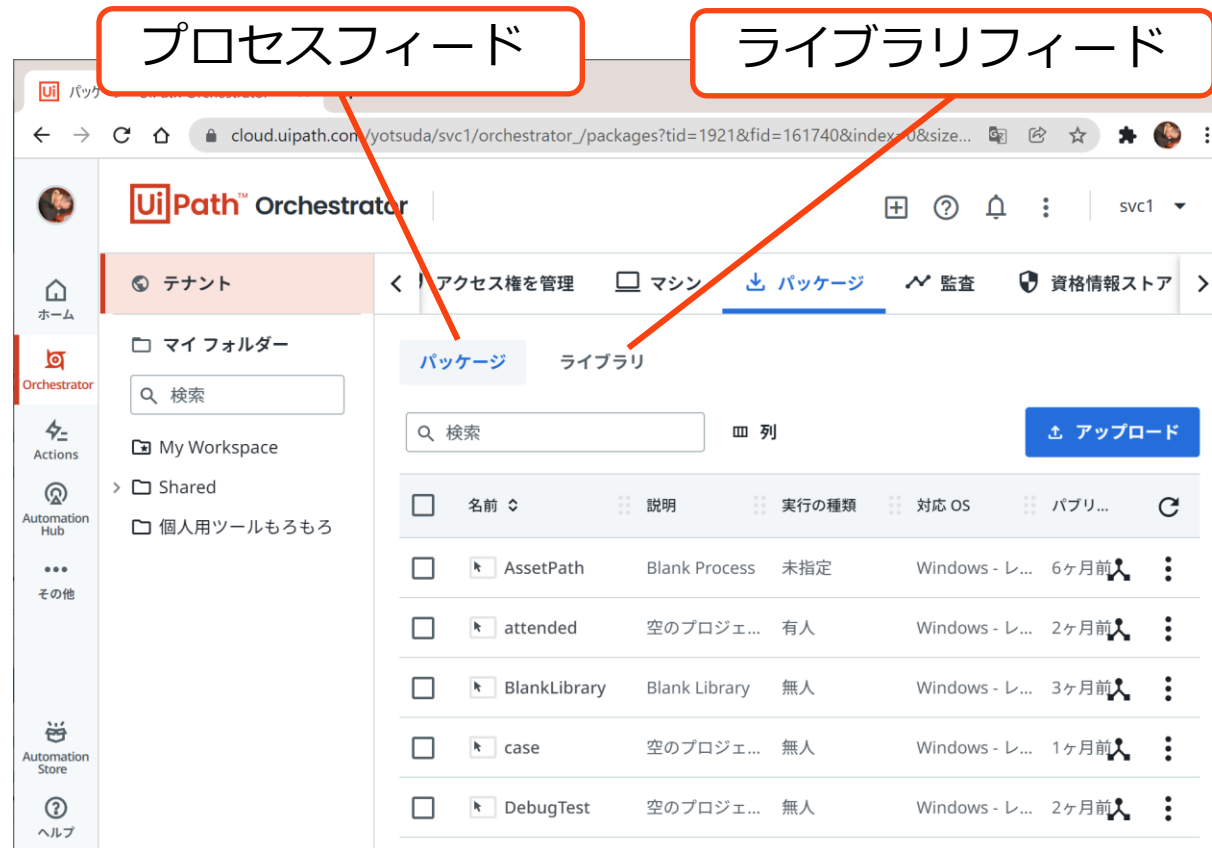
プロセスとライブラリは、それぞれ別のフィードで管理されます。



※ 多くのライブラリも、別のライブラリに依存します。

# Orchestrator 側のフィード

テナント上に、プロセスフィードとライブラリフィードがひとつずつ用意されています。



# プロセスフィードの追加

テナントのプロセスフィードとは別に、フォルダーにもプロセスフィードを付与できます。

- さまざまなデータを分類して管理するため、Orchestrator 上にはフォルダーを作成できます。
- フォルダーの作成時に、このフォルダー専用のプロセスフィードの有無を指定できます。
- フィード付きのフォルダーに割り当てることができるのは、そのフィードにあるプロセスだけです。※

※ 通常の（フィードをもたない）フォルダーには、テナントフィードにあるプロセスを割り当てて下さい。

新しいフォルダー

名前 \*

新しいフォルダー

説明

プロセス パッケージのソース

☐ テナントのパッケージ フィード

☒ このフォルダー専用の新しいパッケージ フィードを作成

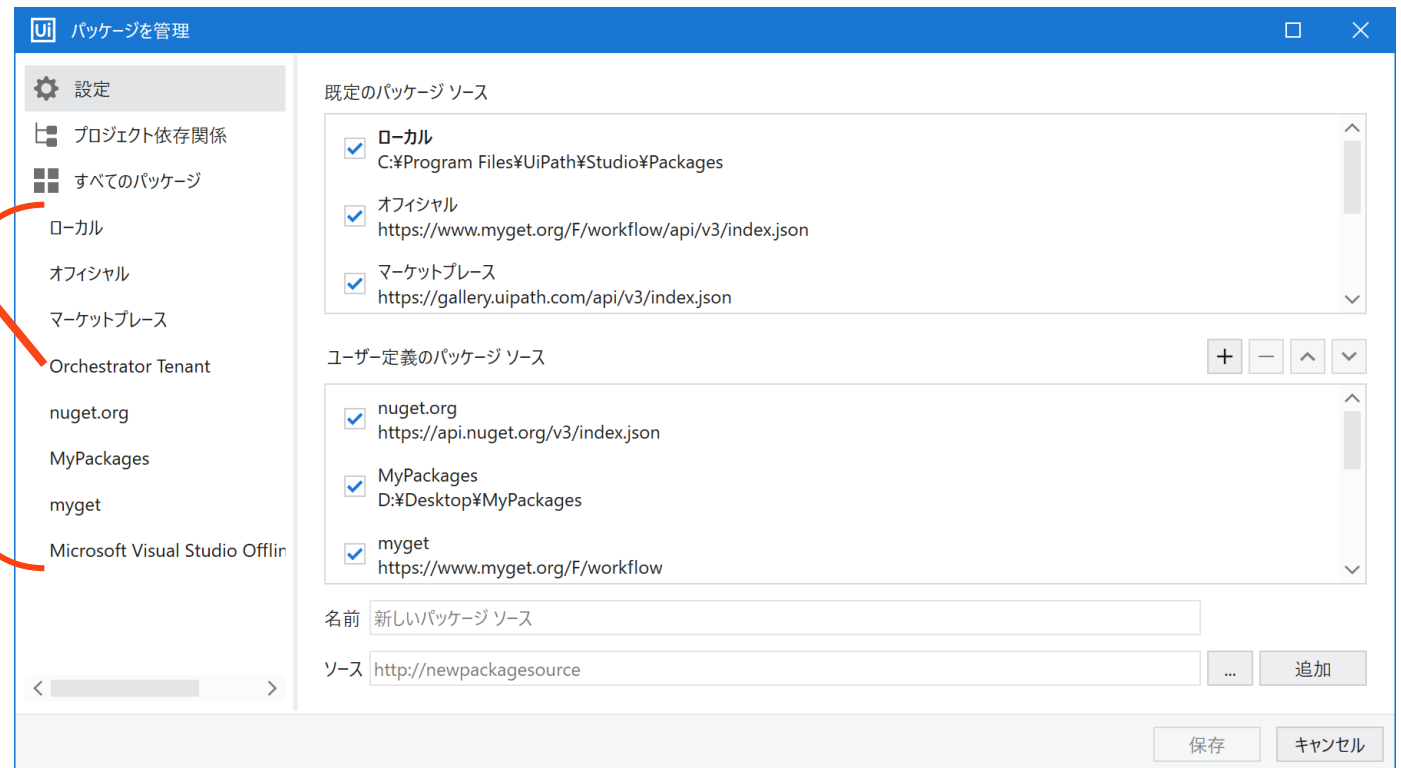
キャンセル 作成

# Studio/Robot 側のライブラリフィード設定

複数のライブラリフィードを、Studio/Robot 側で構成できます。

(Studio のパッケージ管理画面)

- Orchestrator のテナントに、ライブラリ用フィードがひとつ用意されています。
- そのほか、複数の場所にライブラリフィードを構成できます。
- Studio のフィード設定は、Assistant と共通です。  
(Unattended は異なるユーザーでの運用が普通であることにご留意ください)



# Robot が実行できるプロセス

下記の場所にあるプロセスが Assistant に表示され、実行可能となります。

Orchestrator との接続	Assistant に表示され、実行できるプロセス
接続あり	この Studio/Robot が割り当てられている Orchestrator 上のフォルダーに割り当てられた プロセスパッケージ全て※1
接続なし	この Studio/Robot マシンの下記フォルダーにある プロセスパッケージ全て C:\ProgramData\UiPath\Packages※2

※1 テナントにパブリッシュしたプロセスは、フォルダーに割り当てることで実行可能となります。

※2 既定の設定です。UiPath.Settings で変更できます。

<https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/uipathsettings-file-description>

# 補足

- 主なディレクトリ・設定ファイル
- バージョンアップに係るパッケージ管理
- プロジェクトの対応OS



# 補足: 主なディレクトリ

Studio/Robot の主なディレクトリを列挙します。

用途	ディレクトリ
インストールディレクトリ	クイック: %LocalAppData%\Programs カスタム: %ProgramFiles% もしくは指定したディレクトリ
製品に同梱のアクティビティパッケージ (既定のローカルフィード)	インストールディレクトリ配下の Studio\Packages
パッケージファイルの展開先 (nuget キャッシュ)	%UserProfile%\nuget\packages
オフライン時のプロセスパッケージ (既定のパブリッシュ先)	C:\ProgramData\UiPath\Packages
プロジェクトを保存する既定の場所	%UserProfile%\Documents\UiPath
ログファイルの出力先	%LocalAppData%\UiPath\Logs

- ※ インストールディレクトリ以外は、クイックインストールとカスタムインストールで共通です。
- ※ プロジェクトフォルダーは、定期的にバックアップして下さい。Git で管理することをお勧めします。
- ※ Orchestrator に接続している場合、ロボットの実行ログは Orchestrator にも送信されます。

# 補足: 主な設定ファイル

Studio/Robot の主な設定ファイルを列挙します。

設定	ファイル名
自動化プロセスの実行ログ	NLog.config
Studio のログ	Studio.NLog.config
NuGet フィード	NuGet.config
プロキシ設定、対話型サインイン URL など	uipath.config

- ※ インストールディレクトリ以外の場所は、クイックインストールとカスタムインストールで共通です。
- ※ プロジェクトフォルダーは、定期的にバックアップして下さい。Git で管理することをお勧めします。



# 補足: バージョンアップに係るパッケージ管理

既存のプロセスパッケージと、アクティビティ/ライブラリパッケージの管理を示します。

- 既存のプロセスパッケージは、そのまま新しいバージョンの Robot で実行できます。新しい Studio でパブリッシュし直す必要はありません。
- Studio 環境で利用可能なライブラリと、既存のプロセスで利用中のライブラリが、すべて Robot 環境のフィードに配置され利用可能となるように留意して下さい。
- 既存のプロセスが使用しているライブラリは、その必要がない限りは新しいバージョンに変更しないで下さい。変更した場合は、そのプロセスの動作を再テストして下さい。

パッケージ管理の詳細については、下記をご参照下さい。

## パッケージの管理方法について

<https://www.uipath.com/ja/resources/knowledge-base/how-to-manage-packages>

# 補足: プロジェクトの対応OS

Studio 21.10以降では、新規プロジェクト作成時に対応OSを選択できるようになりました。プロセスとライブラリで、揃っている必要があることにご注意下さい。

新しい空のプロセス

空のプロジェクトで始めて、新しいオートメーション プロセスをデザインします。

名前 \* 空のプロセス

場所 \* C:\Users\username\UiPath

説明 空のプロジェクト

対応 OS ② Windows - レガシ

言語 Windows - レガシ  
Windows  
クロスプラットフォーム

対応OS	説明
Windows - レガシ	<ul style="list-style-type: none"><li>.NET 4.6.1</li><li>32-bit (Windows 32bit/64bit 上で実行可能)</li><li>コンパイルされない</li><li>任意のバージョンの Robot で実行可能</li></ul>
Windows	<ul style="list-style-type: none"><li>.NET 5</li><li>64-bit (Windows 64bit 上で実行可能)</li><li>パブリッシュ時にコンパイルされ、高速で実行される</li><li>Robot 21.10 以降でのみ実行可能</li></ul>
クロスプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"><li>.NET 5 (クロスプラットフォーム対応)</li><li>64-bit (Windows/Linux 64bit 上で実行可能)</li><li>パブリッシュ時にコンパイルされ、高速で実行される</li><li>Robot 21.10 以降でのみ実行可</li></ul>

